

学校関係者評価委員会開催資料

学校法人北海道安達学園
専門学校札幌デザイナー学院

開催日：2026年2月27日（金）13：00～14：30

出席委員：外部側関係者（業界団体関係者2名、企業関係者3名、姉妹校卒業生1名）

学校側関係者（理事長、学校長、学校長代理、事務局長、副校長、教務部長代理）

2025年度自己評価&学校関係者評価シート

専門学校札幌デザイナー学院

1、教育理念・目標、人材育成

評価項目		自己評価	関係者評価
1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	4	4
1-2	学校の特色は何か	4	4
1-3	学校の将来構想を抱いているか	4	4
評価項目総括	学校法人北海道安達学園では、3つの教育方針である「基礎知識・技術の習得」「専門知識・技術の習得」「社会性の習得」に基づき、学園使命である、教育事業を通じて、社会に貢献する人材の育成に努めています。また、総合専門学校という特徴を活かし、多様性のある環境から生まれる新しい発見を学生たちの“やる気”につなげ、学生たちが“なりたい自分になる”ためのサポートを行っています。実践指導の中で技術力、創造力、コミュニケーション力を養い、即戦力となりえる優秀なクリエイター、ビジネスパーソンを育てて行くこととしています。 業界関係者・保護者等への周知については、ホームページ等で周知を図っている。		
各評価委員からの意見や課題	「統合デザイン学科」5専攻 イラスト・キャラクター専攻、グラフィックwebフォト専攻、インテリア空間ディスプレイ専攻、ファッション専攻、ゲーム/3DCG専攻及び卒業後1年制の総合研究科の充実。また出口となる職業をきめ細かく表現。		
今後の改善策	ゲーム3DCG専攻の方向性の明確化。他校とのファッション専攻の差別化が明確化（デジタルデザインに重きを置くファッション業界全般に携われるようデジタルスキルと編集能力、ディスプレイ力の強化）インテリア空間ディスプレイ専攻の新しい方向性の模索検討。専攻の境界線にある多様性と柔軟な教育体制の更なる確立つを目指します。		

2、学校運営

評価項目		自己評価	関係者評価
2-1	運営方針は定められているか	4	4
2-2	事業計画は定められているか	4	4
2-3	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	4	4
2-4	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	4	4
2-5	意思決定システムは確立されているか	4	4
2-6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	4
評価項目総括	・運営方針は、事業計画にまとめ、毎年作成している。事業計画は、法人理事会の承認を得て、幹部運営会を経由し周知を図っている。 ・運営組織は、組織図に全教職員を組織上に位置づけ、幹部会議、校務会会議、職員会議を通じて意思決定システムを構築している。 ・人事、給与に関する規定については、法人総務部で一括整備・管理を行っている。賃金の決定は、業務査定・業績査定に応じ行われている。		
各評価委員からの意見や課題	学内での情報の共有化を迅速に進めております。		
今後の改善策	様々な会議や打ち合わせによる専攻を超えた全学生の情報共有。学生個々の問題点の最善の改善策を模索、実践。		

3、教育活動		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1	
評価項目		自己評価	関係者評価
3-1	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	4	4
3-2	修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	4	4
3-3	カリキュラムは体系的に編成されているか	4	4
3-4	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	4	4
3-5	キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	4	4
3-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	4
3-7	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	4
3-8	教員の専門性を向上させる研修を行っているか	4	4
3-9	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	4
3-10	資格取得の指導体制はあるか	4	4
評価項目総括	コンベヤや企業コラボレーションにより、業界に即した人材育成を実施。		
各評価委員からの意見や課題	例年以上の多くの企業コラボを実施。社会と関わった貴重なデザインの体験。（北海道警察からの啓発ポスターの依頼や、大学との選抜美術展への参加など） コロナ、インフルエンザ等感染症対策ための遠隔（リモート）授業に備えた実習課題をどう組み込むか、また専門知識と専門技量の習得のレベル維持のための授業展開の研究並びに検討。 総合デザイン学科として、専攻を超えた共有出来るカリキュラムの検討。新1年生からの単位制移行に伴う、講義と実習科目の再編成。		
今後の改善策	授業の分かりやすさと各授業の繋がりを明確化。 レベル格差のある学生への指導カリキュラムとメンタルに障害を持つ学生への対応。		

4、教育成果		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1	
評価項目		自己評価	関係者評価
4-1	就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか	4	4
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4	4
4-3	退学率の低減が図られているか	3	3
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	4
評価項目総括	キャリアセンターと担任制の就職指導体制により、就職率90%以上を達成している。退学率の更なる低減のための学校長からの担任への教育、助言アドバイス。指導。		
各評価委員からの意見や課題	専門就職率向上のための、1年生からの早期指導を強化。就職内定2年生から1年生へ向けての就活アドバイス、オリエンテーションの実施。退学率低減のための個別カリキュラム作り(対面授業とリモートの併用) 卒業生の活躍などの情報収集。		
今後の改善策	業界研究のための担任とキャリアセンターによる更なるスムーズな連携強化。退学防止のために、担任教育と保護者によって個別指導の更なる充実。面談と個別対応カリキュラムの実施。		

5、学生支援		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1	
評価項目		自己評価	関係者評価
5-1	就職関する体制は整備されているか	4	4
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4	4
5-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	4
5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	3
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	4
5-6	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3	3
5-7	保護者と適切に連携しているか	4	4
5-8	卒業生への支援体制はあるか	4	4
評価項目総括	就職への体制を更に推進し、授業や生活面を把握していく。		
各評価委員からの 意見や課題	入学当初から目標の希薄な学生が増えている。また精神的問題を持った学生が増えているため、担任と全講師によって学生情報を共有し、早期から学生対応の連携を図る。（対面授業経験のない学生のケアが入学当初から必要）また、入学後のアルバイトによる出席率の低下を未然に防ぐこと。（アルバイト内容を担任が把握し、保護者との情報共有を図る）		
今後の改善策	担任と学生本人、及び父母連絡を密にして、連携を強化。		

6、教育環境		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1	
評価項目		自己評価	関係者評価
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	4
6-2	学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	4
6-3	防災に対する体制は整備されているか	4	4
評価項目総括	学内施設は、実際の現場で使用されている設備を整えプロと同じ設備にこだわっている。学外実習、インターンシップそして海外研修については十分な教育体制を整備しているが、学科別の海外研修は実施していない。防災訓練は、避難方法等を指示して実施をしている。		
各評価委員からの 意見や課題	各専攻による業界別インターンシップの機会に対応した企業連携を図る。研究科の学生には、市内、道内に限らず、全国区、及び海外での活動も視野に入れた教育を目指す。		
今後の改善策	担任、全講師、キャリアセンターで更なる社会情勢の分析、企業情報の共有。		

7、学生の募集と受け入れ

		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1	
評価項目		自己評価	関係者評価
7-1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	4
7-2	学生募集において教育成果は正確に伝えられているか	4	4
7-3	入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか	4	4
7-4	学納金は妥当なものとなっているか	4	4
評価項目総括	本校は、北海道私立専修学校各種学校連合会の加盟校であり、連合会の定めたルールに基づいた募集時期・内容を遵守している。また、入学案内、募集要項、ホームページ等の通り、適正に募集活動は行われており、学納金及び教科書・教材費等は毎年見直しを行い、適正かつ妥当であると思う。入学専攻方法も募集要項の通り、適正かつ公正な基準をもとに実施している。		
各評価委員からの意見や課題	学校、学科、専攻の更なる特色や成果を分かりやすく表示。		
今後の改善方策	ホームページの改善、入学案内パンフ、ダイレクトメール、SNS等の表示方法や特色の打ち出し方（積極的に動画配信を取り入れる）を検討。高校生目線、保護者目線、高校の進学担当教員目線のバランス化、差別化の重要性。		

8、財務

		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1	
評価項目		自己評価	関係者評価
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	4
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	4
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	4
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	4
評価項目総括	財務は学校運営の重要な一つである。事業計画を基に中長期の展望を見据え、収支予算計画を作成する。学校、理事会、評議員会と複数の目によるチェック体制のもと、より現実的な予算編成となっている。会計監査は、監事による監査及び公認会計士による監査を実施、計算書類は適正である旨の監査報告書をいただいている。 財務情報の公開体制については、組織的に取り組んでいる。		
各評価委員からの意見や課題	特にありません。		
今後の改善方策	特にありません。		

9、法令等の遵守

		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1	
評価項目		自己評価	関係者評価
9-1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	4
9-2	個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか	4	4
9-3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	4
9-4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	4	4
評価項目総括	法令や設置基準等に従い適正に運営を行っている。自己点検・自己評価の結果について公開を速やかに行っている。		
各評価委員からの 意見や課題	特にありません。		
今後の改善方策	特にありません。		

■今後の取り組みについて

各評価項目について、各評価関係者からの意見や課題を踏まえ、今後の改善方策等を計画的に検討し実施して行くことを学校関係者評価委員一同確認し、教育体制を強化していく。
また、教育課程編成委員会とも連携し教育体制の強化を図る。